

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1 活動のテーマ

< テーマ番号3 >

【満3歳児】 感触あそび・色あそび～存分に遊び、楽しむ中で表現する～ 担当教諭: 伊東理恵 教諭指導造形講師: 山田佐映子

< テーマの設定理由 >

当園の満3歳児クラスでは、五感の成長を促し豊かな感性を育む “感触あそび” を日々の活動に取り入れています。

そこで、満3歳児が興味を示す水あそび等を組み合わせながら、「よごれる」が気にならない新しい画材や道具を準備し「さわってみたい」を促しました。

子どもたちが存分に遊びつくす中で “色” に気付き主体的に表現する意欲をもてるよう活動しました。

2 活動スケジュール

	日程	活動の内容 「保育者の問いかけ」や”アプローチ”	環境設定	活動中の様子 (子どもの姿・声、先生との関わり)	振り返り (担当教諭の気づき、専門講師のアドバイス)
1	7月2日 (火)	フィンガーペインティング (園庭での公開保育) 「さわって見たらどんな感じだろう？」 絵の具、寒天、氷にふれて色や感触を楽しむ	絵の具コーナーには感触あそびを楽しむためのパレットと色を付けて楽しめるように模造紙を用意。着色した氷で、溶ける様子を感じながら、画用紙に色をつけて遊ぶ。	寒天のかたまりを見て、一瞬触っていいのか戸惑うが、触ってみると感触を楽しむように握ってつぶしていた。氷を使ったフローズンペインティングは「つめたい」「色がついた」という声が多く聞かれた。	絵の具の感触が苦手な子は、直接触れなくても遊べるスタンプ（エアパッキンを段ボールにつけたもの）で色・形がつくことで楽しんでいた。色の变化よりも素材の感触を楽しんでいる子が多かった。
2	7月5日 (金)	色水あそび 「水に色はつくのかな？」 色の变化や注ぐときの水の動きなどを感じる	色水の色を見比べられるように並べてみる。注ぎながらやりとりを楽しみ、好きなだけ注げるようたくさん容器を用意。できた色水を窓辺に透かして見れるようにする。	「どうやってやるの？」お花紙から色がでることに半信半疑な様子。色が溶け出して水の色が変化すると「〇〇色になった」と喜んでいて。まだ上手く思ったことを言葉にすることが難しいので、教諭が代弁し言葉にすることで友だちと共有しあった。 色水を容器に移してジュース屋さんをるところから”水の動き”を楽しみ始めていた。容器を傾けると水が流れ出ることから、こぼれると濡れることにも濡れる感覚から気づいていた。	白の絵の具を水道で洗っていた時に「牛乳みたいだね」と子どもが言った発見から始めた活動だった。オレンジ→みかん味、赤→いちご味というように、色から味をイメージし見立てて遊ぶことができていた。
3	9月5日 (木)	氷あそび 「氷にさわったらどうなる？」 氷の冷たさを感じ、溶けていく変化を楽しむ	夏に食べたアイスやかき氷の話題にふれ、氷に興味をもてるよう促す。氷の中のモチーフを手で溶かしながら取り出し、遊びを通して様子の变化に気付けるようにする。	2学期にはいり水遊び期間が終わってしまったが、まだ水の冷たさを楽しみたがっていたこともあり遊んでみた。手の熱で氷が溶けて水になることに気づく。「中にお花が入ってるよ」とモチーフ（お花）が氷に入っていることをみて、お花をとりだすゲーム感覚で氷を溶かしていた。 「だんだん溶けて小さくなってきたね」と声をかけると、子ども達も気づきを言葉にして遊びを始めていた。ずっと触っていると手が冷たく冷えてくると手や手が濡れることもわかった。 モチーフは今でも名札に貼っている子がいる。	「つめたい」「とけてきた」という感覚は五感で分かるが、それを教諭が言葉にすると「感覚」と「言葉」がつながっていった。

	日程	活動の内容 「保育者の問いかけ」や"アプローチ"	環境設定	活動中の様子 (子どもの姿・声、先生との関わり)	振り返り (担当教諭の気づき、専門講師のアドバイス)
4	9月中旬	片栗粉ねんど 「粉に水をまぜてみよう」 粉から触わり、水溶き片栗粉の感触を楽しむ	身近な料理に使われている粉ということを伝え、親しみをもってから始める。容器やスプーンなどを用意し、トロトロと垂れる様子を楽しむようにする。普段の室内遊び時、好きなように関わられるよう、コーナーを置いておく。	粉の状態だと「さらさらだね」「気持ちいい」と手が汚れることが苦手な子も積極的に触れてみようとしていた。「もっと水いれて」とろみの固さを感じながら遊んでいた。感触を楽しめる子はトロトロの感触を味わっていた。手に絡みつく感覚を嫌がる子も。 色をつけてみたいか聞くと「つけたい」と声があがり、好きな色（赤、青、黄）で色付け。ゼリーカップとスプーンを用意すると、子ども達同士で「こっちにちょうだい」「どうぞ」「アイスだよ」とやりとりが始まった。	購入したスモックを着用することで、服が汚れてしまうことを気にせずのびのびと遊ぶことができた。一斉に行わず、室内遊びの中でコーナーを置くことで、好きなだけ遊び、いろいろな友だちと関わりがもてた。
5	9月30日（月）	小麦粉ねんど（造形講師との共同活動①） 「こねて遊んでみよう」 粉から粘土になる様子を見たり、粘土の感触を味わいながら遊ぶ。	身近な料理に使われている粉に触れ、粘土になっていく変化に興味をもてるようにする。	粉を手だけではなく足でも触れていた。握ると固まることが講師の見本からわかり、真似をする姿が見られた。水でこねて感触が変化し粘土になると、こねたり丸めたりしていた。高月齢と女の子は、おままごとに発展する子が多く、低月齢はちぎったり、伸ばしたりして遊び、成長の差がみられた。足でふんで平らにする子もいた。「やわらかくて気持ちいい」という感覚を楽しんでいた。	食紅よりも絵の具の方が発色がよいというアドバイスが講師よりあり、絵の具を使用。粘土で何かを作って遊ぶということは、創造力・想像力を育てるだけでなく、自分のイメージしたことを形にして表現し、肯定感を高めることにも繋がっていると思った。片栗粉も小麦粉も粉類だが、水を混ぜた時の感触の違いを味わえた。
6	10月4日（火）	落ち葉あそび（造形講師との共同活動②） 「落ち葉に絵の具をぬってみよう」 好きなように紙に貼り、自由に絵の具で着色する。	園庭で拾った葉を使い、色や形を見比べたり、匂いを嗅いでみたりする。緑茶との嗅きくらべもしてみる。	落ち葉は「くさい」「におわない」、緑茶は「いいにおい」「おいしい」等を感じていた。葉に筆を使って絵の具をつける際、始めは葉の上だけに塗っていたが、まわりの紙にも塗り始めると、葉を気にせずにどんどん絵の具を塗り重ね、色の変化と筆を伝わって感じる絵の具の感触を味わっていた。 用意していない茶色を使ったがっていた子が、色を混ぜていくうちに茶色っぽく変化していくことに気づき「茶色になった」と何度も言っていた。	トレーの上に絵の具を入れた牛乳パックを並べて、使った後はきちんと元に戻すということを講師の指導で行った。何か紙の上にある状態で絵の具を塗ることは初めてで戸惑うのかと思ったが、意外と思いきり塗り重ねて大胆に楽しんでいた。
7	10月24日（木）	木ねんどクッキー 「ねんどに落ち葉やどんぐりを混ぜてみよう」 造形で経験した“ねんど・落ち葉”を発展させてイメージを形にしてみる。	落ち葉をよく乾燥させて、握るとバラバラにくだけるようにしておく。 葉の匂い、自然を感じられよう木からできた紙ねんどを使用。	乾いた葉は、バラバラに碎けることに気づき、その感覚を面白そうにしていた。 3~4人ずつのグループに別れて作り、教諭が「このやり方がいいね」などと声をかけて、友だちが作る様子にも目を向けられるよう促していった。 葉やどんぐりを紙粘土に混ぜてクッキーを作る子、表面にのせる子。作る工程で色々な考えがあったことが、出来上がった作品からみられた。	作っているうちに「クッキー」というテーマから「ケーキにする」と自分でテーマを変えて作る子が出てきた。形にとらわれずに表現することも良いと思った。

	日程	活動の内容 「保育者の問いかけ」や"アプローチ"	環境設定	活動中の様子 (子どもの姿・声、先生との関わり)	振り返り (担当教諭の気づき、専門講師のアドバイス)
8	10月28日（月）	落ち葉（園外保育 親子遠足） 「どんな色があるかな？音は？かたさは？」 色の違いや葉の様子などに関心をもって遊びに取り入れる。	園庭や近所の公園の葉と一緒にひろい、色・形などに興味関心がもてるよう促す。 皆で作った共同制作を園舎内に展示し、思い出を振り返ったり、他学年と共有したりする。	園近くの公園で様々な落ち葉や木の実を拾い、動物の形や絵の上に張り付けて制作を楽しんだ。園庭で落ちているものとは違うものを見つけて「あったよ」と喜んでいった。「どこにくっつけようか？」と教諭や保護者とともにやりとりしながら自分なりの張り方を工夫していた。	拾ったものをとりあえず貼っていく子もいれば、“この種類”と決めて並べて貼り、こだわりをもって取り組む子どもなど個性がみられた。葉にも、どんぐりにも色々な形・大きさ・色があると気づけた。
9	3月4日（火）	クッキング 「カラフルケーキをつくってみよう」 自分たちでホイップクリームに色をつけてみて、混ぜたりあう様子を見たり、味わったりする。	色の足し算が見えるようにパネルをはる。 ボランティアの保護者を募集し活動を共有する。 購入した絵本「いろいろばあ」を導入として使用した。	色の名前は知っていても、混ぜ合わせたら色が変えることを知らない子もいる様子で、導入での絵本を見て、別の色になったことに興味を示していた。「わあ ○色になった」と着色したクリームを見て驚いていた。「ここに○色のクリームをしぼる」と自分で好きのようにケーキのトッピングを楽しみ、自分で作ったケーキを喜んで食べていた。	絵本を見て色がどう変化するのかを知っている子は、知識として覚えていた。絵本で知っていても、実際に混ぜていくと、色の濃淡の違いがあったり、配分によっても違いがでたりすることにも気づけるのだと思う。絵本にでてくる色以外にも混ぜてみようち挑戦してみることにもつながっていく。